

日本行動計量学会年表

年	月	事 項
1969	8	第1回行動計量学シンポジウム開催（学会館本郷分館）
1970	8	第2回行動計量学シンポジウム開催（8/24 - 26）（学会館本郷分館・国立教育会館第9研究室、発表数 = 18）
1971	8	第3回行動計量学シンポジウム開催（8/25 - 28）（学会館本館、発表数 = 42）
1972	8	第4回行動計量学シンポジウム開催（8/30 - 9/2）（統計数理研究所、発表数 = 49）
	9	行動計量学会発足準備委員会設立
1973	9	日本行動計量学会発足（第1回大会：統計数理研究所、大会長 = 林知己夫、発表数 = 61）、参加者数300名を越える。 林知己夫理事が初代理事長となる 東京大学医学部疫学教室に事務局が置かれる（初代事務局長：柳井晴夫理事）
	12	会報第1号が発行される（巻頭言：林知己夫）
1974	1	第1回月例会開催（行動計量学の諸問題、統計数理研究所）（後に「月例会シンポジウム」、「行動計量シンポジウム」に改称）
	2	数理科学（第12巻2号）発行、特集「行動計量」（会員に無料で配布）
	3	行動計量学（第1巻1号）刊行、特集「行動計量学の課題」（編集委員長：野元菊雄理事）
	4	会員名簿発行（正会員420名、準会員67名、賛助会員25社）
	9	Behaviormetrika（No.1）刊行、6論文が掲載される（編集委員長：印東太郎理事）
1976	2	会員名簿発行
	4	林知己夫理事が理事長に再選
1977	4	統計数理研究所に事務局が移転（事務局長：水野欽司理事）
1979	4	林知己夫理事が理事長に再選
1980	7	Behaviormetrika、年2冊刊行となる
1982	4	林知己夫理事が理事長に再選 大学入試センターに事務局が移転（事務局長：岩坪秀一理事）
	8	10周年記念大会が開催される（国立国語研究所） 記念公開講演「日本人論と行動計量学」（林知己夫）、「言語行動の国際比較」（林大）
1983	8	会員数が1,000人を越える
1984	3	会員名簿発行
	8	日本学術会議登録団体となる

年	月	事 項
1985	4	林知己夫理事が理事長に再選 立教大学に事務局が移転（事務局長：岡太彬訓理事）
1986	9	学会賞設立 [功績賞（第1回受賞者：高根芳雄会員）、優秀賞（第1回受賞者：富山慶典会員・永岡慶三会員）]
1988	4	肥田野直理事が第2代理事長となる 国立国語研究所に事務局が移転（事務局長：江川清理事）
1989	12	会員名簿発行
1991	4	水野欽司理事が第3代理事長となる 東京工業大学に事務局が移転（事務局長：繁榊算男理事）
1993	9	山本俊一元理事が名誉会員（第1号）となる
	11	行動計量学シリーズの刊行が開始される
1994	4	柳井晴夫理事が第4代理事長となる 統計数理研究所に事務局が移転する（事務局長：村上征勝理事）
	7	会員名簿発行
1996	9	第24回大会を日本統計学会と共催（宮埜壽夫・大会実行委員長、幕張メッセ）
1997	3	第1回春のセミナー合宿を開催（東京大学検見川セミナーハウス）
	4	柳井晴夫理事が理事長に再選
1998	8	会員名簿発行
	7	Behaviormetrika（Vol.25より）とPsychometrika（Vol.63, No.3より）が掲載論文の目次交換を開始
1999	9	学会賞（奨励賞）設立（第1回授賞者：土屋隆裕会員）
2000	4	杉山明子理事が第5代理事長となる
	12	会員名簿発行
2002	9	学会賞（功績賞・優秀賞）が林知己夫賞（功績賞・優秀賞）に、学会賞（奨励賞）が肥田野直・水野欽司賞（奨励賞）に改称される
2003	4	杉山明子理事が理事長に再選 事務局長：馬場康維理事（統計数理研究所）
	11	日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会の3学会が相互の連携協力のもと、社会調査士資格認定機構を発足させた
2005	3	会員名簿発行
2006	4	飽戸弘理事が第6代理事長となる 事務局長：吉野諒三理事（統計数理研究所）
2007	12	会員名簿発行